「分かっていないのではないか」からの解放

金城芳秀（疫学と保健医療情報、保健医療情報演習）

教育上の課題と工夫

COVID-19 に伴う遠隔教育の展開は挑戦であった。本科目では、ZOOM と Office365 アプリケーションの利活用に活路を見い出した。遠隔講義は教員の一人芝居に感じられ、ときどき学習者に顔出しでの ZOOM 参加を求めた。しかし、家庭内のネットワーク環境の制約、不慣れなノートパソコンの操作、さらには大学配布パソコンの性能もあり、大学院の少人数授業のようには展開できなかった。時機を逃さず、教職員・学生ボランティアによるトラブルシューティング体制もできあがった。次から次に届く科目関連の指示メールも、不慣れな学習環境はストレスであり、学生はモチベーションの維持が容易ではなかったと思われる。1 日の時間帯に関係なく五月雨式に届く学生からの質問には、個別に対応しながら、クラス全体へのフィードバックも図った。

演習科目（保健医療情報演習）では、基本はチーム単位の活動となった。その際、プレゼンテーションは ZOOM 録画資料として、評価（自己評価と他者評価）の対象とした。チーム課題に含めた個人課題も ZOOM で個別に確認した。登校が許された状況下では、学内に分散してチーム活動を要請した。学生の進捗状況を確認するために、「報連相」を Microsoft FORMS で継続した。

中間・期末試験は直接監視下の実施が困難なため、問題文とその選択肢のシャッフル表示、複数回答、回答時間の制限および正解率が高い問題の順に採用（一定数は評価に含まれない問題がある）するなど、カンニング防止を企図した試験方法を展開した。試験当日の欠席者には、ZOOM 上で一対一の追試で対応した。

2022 年に登場してきた生成 AI は、作文、翻訳、文章校正、質問応答などの強力なツールであると同時に、内容を鵜呑みにすれば学習者の思考停止を招きかねない。レポートや論文作成における学問的誠実性（academic integrity）をふまえるには、オンライン、オフラインを問わず、成果を導き出す過程を丁寧に確認する必要がある。マハトマ・ガンジーによれば、「良きことはカタツムリのようにゆっくり進む．だから，自分のためでなく人々のために働く人は，いたずらに急がない．なぜなら，人々が良きことを受け入れるには多くの時間が必要なことを知っているからだ」である（出典：神馬征峰「みんなの健康学」序説, P48）。今後の教育は新たな視点と時間が必要と思われる。

コロナ禍の教育活動を振り返って

コロナ禍の教育活動を振り返ると、教育は相互作用であることが再確認できる。本科目では、e-ラーニングの導入、オンラインコースの構築は課題として残った。非同期のオンラインコースの場合、個人のペースで学習できる反面、時間管理は個人にゆだねられる。科目内でのバランスだけではなく、カリキュラム全体のバランスも含め、学術的負荷が過重にならないように、現実的な学習時間の確保を保証する必要もある。

2023 年度は、教室内での対面授業に戻り、教室全体の雰囲気から「分からないのは自分だけではない」と「学習者に分かってもらっていない」が同時に分かる。遠隔授業にて経験してきた不安・孤独から解放された感があり、学生の居眠り、おしゃべりも、どこか心地よさがあった。時間と空間の共有は期待を超えて重要である。